

事業所名

クオリティ・オブ・ライフ保土ヶ谷支援教室

支援プログラム（参考様式）

作成日

令和6年

10月

8日

| | | | | | | | | |
|-----------|-----------------|--|-----|----|---------|----|--|----|
| 法人（事業所）理念 | | 障がいの有無に関わらず、全ての方が活躍できる「ノーマライゼーション社会の実現」という信念をもって、社会福祉サービスの提供をしております。 | | | | | | |
| 支援方針 | | ダンスを中心としたカリキュラムを取り入れ、「ソーシャルスキル」「ライフスキル」「コミュニケーションスキル」など、子ども達が社会生活における必要な力を身につける為のサポートを行います。 子ども達に関わる全ての職員が一体となって「生活の質の向上」を支援して参ります。 | | | | | | |
| 営業時間 | | 平日 | 10時 | 0分 | 18時 | 0分 | 送迎実施の有無 | あり |
| | | 土曜日 | 9時 | 0分 | 17時 | 0分 | | |
| | | 支援内容 | | | | | | |
| 本人支援 | 健康・生活 | 身辺自立や状況に合わせた行動を促し、成功も失敗も含めた経験を重ねて学びにつなげ、自分自身の力でできること・やってみようと思えることを増やしていく。 | | | | | | |
| | 運動・感覚 | ダンスや手話を中心としたカリキュラムを取り入れ、身体・手先の運動機能の向上を図る。姿勢の保持、集中力の向上、体幹やボディイメージの強化も目指していく。 | | | | | | |
| | 認知・行動 | 自分自身の気持ちや考えを理解し、『いつ・誰が・何を・どのように』など少しずつ言語化していけるよう支援する。 自分からのチャレンジを促しながらも『わからない』『間違える』ことを悪いことと思わないよう声かけを行い、困った時や手伝ってほしい時には自分から助けを求められるよう意識づけを行っていく。 | | | | | | |
| | 言語 コミュニケーション | 遊びや日々のカリキュラムを通じて職員やお友だちとの交流を増やし、言葉でやり取りする機会を多く持てるようにする。一方的な発信だけでなく、相手の言葉・気持ちの聞き入れや理解にもつなげ、コミュニケーションの向上を図っていく。 | | | | | | |
| | 人間関係 社会性 | 状況に応じた適切な行動やルールを理解を促して実践していくことで、積極的な集団活動への参加につなげていく。 『困った時に自分から助けを求める』ことが身につくよう意識づけを行っていく。 | | | | | | |
| 家族支援 | | 保護者と密に連携を取り、苦手な部分や心配になった部分をと一緒に解決していく。 心理的な変化を観察して、家庭との連携を深める。 | | | 移行支援 | | 保護者の意向を確認したうえで保護者・学校・関係機関等との連携を取り、情報を共有して本人の将来を見据えた社会参画を促していく。 | |
| 地域支援・地域連携 | | 可能な範囲で地域のイベント等に参加し、交流を深めていく。 | | | 職員の質の向上 | | グループ全体で、衛生管理・虐待身体拘束の防止・非常災害対策等の委員会を設置している。各部署の責任者が集まって、日々の支援の振り返りや情報共有会、事例検討会、訓練等を各月ごとに実施している。 | |
| 主な行事等 | | ダンス・手話の発表会（年1回 映像またはオンライン参加）、体験交流会（年2～3回 問い合わせをいただいた方を対象）等 | | | | | | |